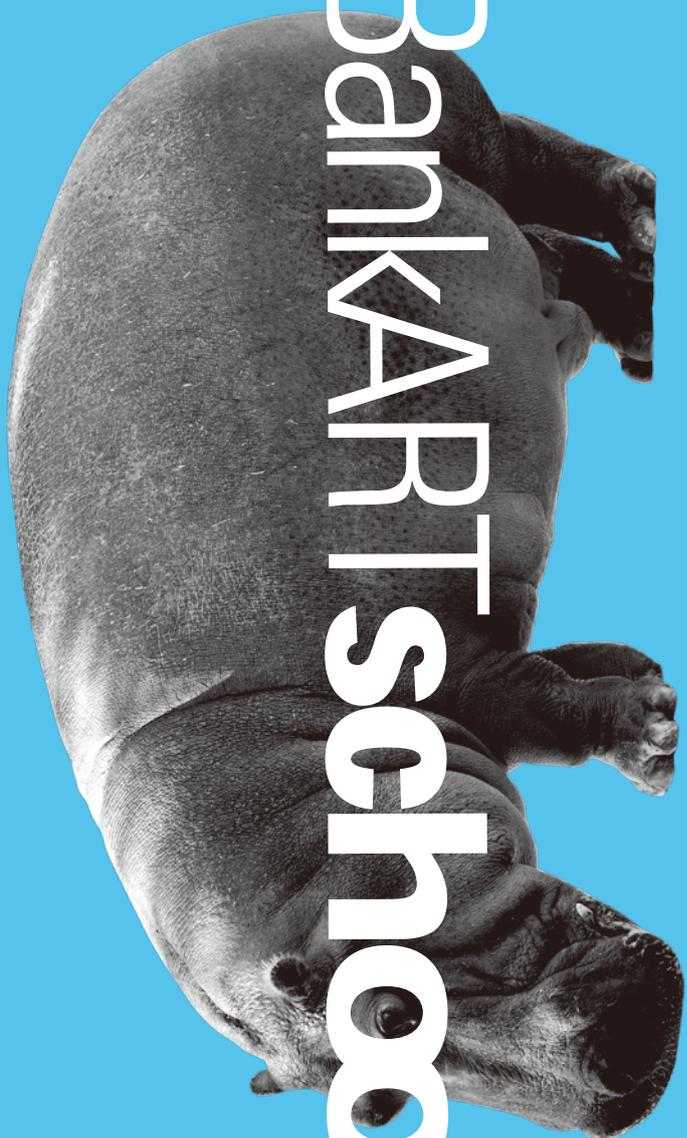


バンカートスクール
2019年7月ー9月
募集案内

BankART School



- 月ー今福龍太「夜、瓦礫、屑の叛乱」70年代の芸術的〈知〉の連動の諸相 @BankART Home
- 火ー村田真「平成の美術」@BankART Station
- 水ー藤枝守「ふるえ」と「きこえ」@BankART Home
- 土ー松本秋則「サウンドオブジェを作ろう」@BankART Station

バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。と書いてから早15年。場所は「馬車道に残る歴史的建造物」から日本郵船の倉庫へ、関内の泰生ビルへ、そしていままた泰生ビルに加え、シルクセンター、新高島駅へと拡大しましたが、中身は大して代わり映えしません。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。この15年の間に304講座、述べ1011人の講師の方々をお招きました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ4800人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

(バンカートスクール校長 村田真)

月 19:30 - 21:00

BankART Home

今福龍太

「夜、瓦礫、屑の叛乱 —— 70年代の
芸術的〈知〉の連動の諸相」①7/8 ②7/15 ③7/22 ④7/29
⑤8/5 ⑥8/12 ⑦8/19 ⑧8/26

1960年代末～70年代にかけて、アートと学問の境界を越えて花開いた「芸術的〈知〉の連動」の諸相を、多木浩二、東松照明、山口昌男、高橋悠治、吉増剛造の5人における「思想」「写真」「音楽」「詩」の領域侵犯的な交差として語る。講師による同時代的な証言をも交えつつ、非アカデミックな〈知〉の刺激的なあり方を浮かび上がらせたい。テキストには、対話によるこの時代精神のアーカイヴとして刊行された今福龍太の新著『小さな夜をこえて』（水声社）を用いる。

いまふく・りゅうた | 文化人類学者、批評家。東京外国語大学大学院教授。巡礼型の野外学舎「奄美自由大学」主宰。著書に『クレオール主義』『ミニマ・グラフィア』『群島-世界論』『レヴィ=ストロース 夜と音楽』『薄墨色の文法』『書物変身譚』『わたしたちは難破者である』『ハーフ・ブリード』など。

火 19:30 - 21:00

BankART Station

村田 真

「平成の美術」

①7/9 ②7/16 ③7/30 ④8/6
⑤8/20 ⑥9/3 ⑦9/10 ⑧9/17

小淵官房長官が「平成」の2文字を掲げて以来30年余り。この5月「令和」に改元され、さっそく平成を振り返る回顧記事が見られるようになりました。美術は平成時代にどう動いたのか。本講座もまさに改元便乗企画、急ごしらえの緊張感が伝わってくることでしょう。

1. 明治・大正・昭和の美術 / 2. バブルと冷戦と地殻の崩壊 / 3. ネオポップ、マイクロポップ / 4. 国際展、芸術祭、地域アート / 5. パブリックアート、ストリートアート / 6. 美術館、ギャラリー / 7. アートマーケット / 8. 横浜の平成美術 (の予定です)

むらた・まこと | 美術ジャーナリスト、画家。東京造形大学、慶応義塾大学、実践女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。朝日新聞、北海道新聞、ウェブマガジン「アートスケープ」などに執筆。主な著書に『アートのみかた』、編書に『いかに戦争は描かれたか』（どちらもBankART1929）など。

水 19:30 - 21:00

BankART Home

藤枝 守

「ふるえ」と「きこえ」

①7/24 ②7/31 ③8/7 ④8/28
⑤9/4 ⑥9/11 ⑦9/18 ⑧9/25

世界は「ふるえ」につつまれている。その「ふるえ」が「きこえ」という知覚によって、どのように変容し、そこにあらたな想像力が生みだされるのか。その手がかりのひとつとして、「音なひ」という白川静の漢字の世界でしばしば登場するキーワードをもとに、「ふるえ」と「きこえ」とが横断する領域をさぐってみる。具体的には、植物の電位変化から生まれた「植物文様」という音楽をはじめ、焼酎の発酵音響や博多織の機音にもとづくサウンド・インスタレーションや舞台作品を事例に、「ふるえ」を変換させたり、見立てることによって「きこえ」の領域がどのように広がっていくのかを紹介したい。

ふじえだ・まもる | 作曲家。カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D. in Music)を取得。植物の電位変化データに基づく《植物文様》という作曲シリーズを展開。著書として、音律の多様性や可能性を明らかにした『響きの考古学』など。最近のCDとしては、西山まりえの演奏による《ゴシック・ハーブの植物文様》やサラ・ケイヒルのピアノによる《Patterns of Plants》など。『響の音なひ』や『織・曼茶羅』などの舞台作品も手がける。昨年(2018年)、台湾大学アーティスト・レジデンス・プロジェクトにより《台湾茶の植物文様》を発表。現在、九州大学大学院芸術工学研究院教授。

土 16:00 - 17:30

BankART Station

松本秋則

「サウンドオブジェを作ろう」

①6/29 ②7/13 ③7/27 ④8/17
⑤8/24 ⑥8/31 ⑦9/7 ⑧9/21

私は35年ほど前から竹を使って楽器作りをしています、楽器と言っても既成の楽器ではありません、私が創作したオリジナルのもので、それをサウンドオブジェと呼び、展示やパフォーマンスで使い、今までにない音響の世界作り出しています。今回のワークショップでは竹を使って、それぞれオリジナルのサウンドオブジェを作ってもらい、その演奏方法や展示の方法を考える、ワークショップです。

まつもと・あきのり | 1951年生まれ。1978年より創作活動を始め、現代日本美術展、日本国際美術展、ヘンリー・ムーア大賞展など数多くに出品する。1992年五島記念文化財団の助成で、1年半アジア7ヶ国で少数民族の芸能を研究。1999年 第9回バングラデシュ・アジア・アートビエンナーレでグランプリを受賞、2015年彫刻の森美術館、2018年 MOCA 銀川美術館(中国)で個展、現在はアキノリウムと言う新しいジャンルを開拓中。

BankART schoolの概要

時間 = 19:30~21:00 (土曜は16:00~17:30)

会場 = BankART Home

横浜市中央区相生町3-61 泰生ビル1F

JR 関内駅、みなとみらい線「馬車道駅」徒歩5分

BankART Station

横浜市西区みなとみらい5-1

みなとみらい線「新高島駅」地下1F 構内

料金 = 1講座(全8回) 12,000円、入学金3,000円(初めての方のみ)

定員 = 18名

お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号

⑤メールアドレスを、メール・電話のいずれかにてお知らせください。

※一旦納入された受講料は返金できません。

※講座によっては別途材料費・資料代がかかる場合があります。

※申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ BankART スクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812